

令和 元年 9月定例会(第3回) - 09月12日-03号

通学区域

◆中島章二(10番) [登壇]

通学区域についてですが、市内の大規模中学校について、少子化の進行に伴い、小学校から中学校への進学時に、少人数での入学となる状況があると聞きます。小学校時代の同級生が少ない状況での中学入学となると、生徒、保護者への心理的負担があるのではないかと思います。

そこで、現状について把握をする必要があるのではないかと思います。市教委としてのお考えをお伺いいたします。

◎教育次長(河野徹君) [登壇]

私からは、中学校通学区域につきましてお答えいたします。

まず、義務教育における通学区域制度につきましては、法令上の規定はなく、適正な規模の学校と教育内容を保障し、これによって教育の機会均等とその水準の維持向上を図るという趣旨から定められておまして、日田市におきましては、日田市立学校通学区域設定規則により、小中学校の通学区域が定められております。

現在定められております本市の通学区域によりますと、議員の御指摘のとおり、小学校によっては、居住する地域により、卒業生全員が一つの中学校に入学することにはならず、一部は別の中学校に入学するというケースが生じてまいります。

具体例を申し上げますと、咸宜小学校の卒業生につきましては、大半が東部中学校に入学することとなりますが、丸の内、港町に居住する児童は三隈中学校に、豆田町に居住する児童は北部中学校に入学することになるというものでございます。

そこで、お尋ねにございます、少人数での入学に伴う新たな人間関係などの心理的な負担に関する現状把握についてでございますが、現在、市教委では、お尋ねにございますような把握というものを行っておりません。

しかしながら、各中学校におきましては、まずは入学前に実施いたします説明会にて、児童やその保護者に対し、中学校生活に対する悩みや不安に対する学校の相談体制について説明を行い、入学後においてもきめ細やかな見守りや、毎日提出する生活記録ノートによる生徒の状況を把握するとともに、必要に応じて、生徒や保護者を対象として個人面談を実施するなど、心理的な負担を解消するよう努めているところでございます。

加えて、大規模校に少人数で入学してくる場合には、入学時のクラス分けの際に、子供たちの出身校を考慮するなどの配慮も行っているところでございます。

また、これらの学校での取り組みの中で、必要があれば、学校長が市教委に報告や相談を行い、市教委といたしましては、各事案に応じた指導等に努めているところでございます。

このように、現在、各学校においては、個別具体的に生徒に寄り添った対応を行っているところでございますので、市教委といたしましては、議員のお尋ねにございますような現状把握を別途行う予定はございません。

今後とも、ただいま申し上げましたような対応を図る中で、生徒や保護者の心理的負担の解消に

努めてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

通学区域についてでございますが、こちらのほう通学区域についてですが、まず、私のほう聞かせていただいているのが、非常に中学に入るときに、少人数で大規模校に入るといことで、不安を感じて学校に入学してくるとい子供さんがいらっしやることを聞いております。

こちらについて、入学時対応をしているといことでございましたが、この現状について、私は保護者の方、児童生徒について実際どう思っているのか、現状の把握をすることは必要ではないかと思っておりますが、これについてもう一度お聞かせください。

P.170

◎教育次長（河野徹君） 現状把握につきましては、先ほど御答弁の中で申し上げましたように、入学時の説明会において、学校としてそういった体制をとっておりますよといことを御案内する中で、個別具体的に対応はさせていただいておるといような状況でもございます。

それと、一つ、小学校でも、中学校でも、入学に際しては、小学校大規模から大人数で一つの中学校に行くと、行かないとにかかわらず、新しい人間関係をつくるという中で、子供さんであるとか、保護者の方にしてみれば、やっぱりうちの子供はうまくやっていけるんだらうかと、みんなそういった不安とか悩みとかいのは持ちながらも、例えば中学校でいえば、その3年間の中で、新しい人間関係といのか、友達をつくっていくと、特に中学校でいえば、そういった人間的にも大きく成長するような時期でもあろうかといふうに感じておりますけども、その中でも、学校としても、市教委としても、そういった不安や悩みといことに対して寄り添うといことは、基本でございますので、そういった意味から、改めての現状把握的な調査を行うことは考えていないといところでございます。

P.170

◆10番（中島章二君） 現状必要ないといことで、今、捉えさせていただいたんですが、実際の保護者の方の御意見と、子供たちの意見をまず聞いてみるといことは、私は必要ではないかと、それを聞いた上で、現在の通学区域について検討する必要があるないとい判断を下していくといのはわかりますけど、まずは、実際声を聞いてみるといことが必要ではないかと思っておりますが、再度ですけど、そちらについてまたお答えいただければと思っております。

P.171

◎教育次長（河野徹君） 議員のほうから、通学区域のといことでもお尋ねをいただいたところでもございますけども、通学区域、先ほど申しましたように、東部中学校では、咸宜から、日隈小学校ですか、1区域であるとか、北部中学校であれば豆田からといことで、限られた中で、少人数で入学するといことになる中で、そういった通学区域の見直しといようなことも踏まえて、改めてそういった調査を行うと、意見を聞くといようなところはやっぱり考えていないと、一つは通学区域といそ

のものは、先ほど御答弁の中でも申し上げたんですが、法律といいますか、そういった法令的には定めがないというものの、これまでの長い、そういった地理的な条件であるとか、地域の成り立ちの中で、今の学区といいますか、そういったものができ上がっていると、それに基づきながらも、地域のコミュニティというものがつくられておるといことも一つある中で、そういった通学区域を踏まえた現状把握的なところということとは、想定もしておらないと。

ただ、繰り返しになりますが、そういった聞かないということと、いつでも聞くということと、毎日の学校生活の中で、先生方、子供の一人一人のそういった心情といいますか、悩みであるとか、そういったところは日々把握もしておるといことでもございますので、その中でも、十分対応できるんじゃないかというふうにも考えておりますことから、調査は必要ではないんじゃないかというふうに考えておったということでございます。

P.171

◆10番(中島章二君) 児童生徒、それから保護者の方については、入学時等に対応しているということですけど、先ほどから業務改善の中でも申し上げましたが、地域と一緒に学校を改善していこうという考えからしていくと、例えば、小学校区でつくられた地域なら小学校に対してサポートしていきましょうというような流れから、それから中学校に行ったときに、本当に少人数の保護者、それから地域の方々の入学、大規模校への入学ということで、地域全体で、子供たちを育てていきましょうというようなところも少し考えてみますと、一旦通学区域について、意見を聞いてみるということは必要ではないかと思えます。

こちらのほう、私の要望というような形にさせていただいて、今後も検討させていただきながら、通学区域についてもお考えをまたお話をさせていただければと思います。

私は、とにかく10年後、20年後も住みやすい日田、住み続けたい日田をつくっていくために、子供たちが安心して暮らせる、それから子育てしやすい日田という取り組みを徹底することは、今の日田にとって、とても重要なことだと思っております。

現在、これまでどおりだったからよかったというものではなく、現状をいま一度把握しまして、将来を見据えた日田市独自の政策を実行していくことを必要と考えまして、今回の質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。